

# 平川カントリーエレベーター取得承認 総事業費22億7千万円

## 臨時総代会開催

2月17日、JA本店で平川カントリーエレベーター取得に関わる臨時総代会が開かれました。総代会には総代560人に対し478人(本人出席351人・代理人出席3人・議決権行使者124人)が出席。議案第1号平川カントリーエレベーター取得についてと、これに伴う附帯決議を提案し承認された。



昨年9月25日に開かれた通常総代会で「平川カントリーエレベーター」及び「水稲種子・大豆乾燥調製施設」を提案し、用地取得を23年度に施設の稼動を25年9月とする議案が承認された。さらに11月25日には、計画全体を1年前倒しするための臨時総代会が行われた。今回は2つの事業申請のうち「平川カントリーエレベーター」の1事業だけが国の採択を受けたことにより、計画の変更に伴い開かれた。

阿保組合長は「国の予算が全体で60億円と少なく、飼料用米などの生産拡大の取り組みが上位にランクされており、種子センターへの補助金の採択が不可となったことや当JA管内過去5年間の最大収穫量に飼料用米を加え9千トンで計画したが、国では過去5年間の平均収量という基準で8千トンに変更になりました」と報告した。また活用方法について「当時の国の指導は、既存の施設で一次乾燥し新設するカントリーエレベーターで二次乾燥・調整の

方式であったが、その後、施設の集約化を図ってほしいとの要請があり、今回の提案内容に落ち着きました」と説明し、種子センターについては「国の助成金やJAの財務状況など総合的に判断し考えて行きたい」と挨拶を述べた。

議長に藤崎町の對馬俊秋氏を選任し、JAから提案理由や事業規模、事業費などの説明がなされ、議案に対する活発な意見が行われ賛成多数により承認された。

これに伴い平賀カントリーエレベーター、新屋ライスセンター、石川ライスセンターの3施設を



廃止し、尾上カントリーエレベーターは当JA以外の飼料用米専用施設に、尾上ライスセンターは当JA管内の飼料用米専用施設として有効活用される。

新設される平川カントリーエレベーターは貯蔵能力8千トンで、平川・石川両地区の主食用米を一括で荷受け管理し、作業の効率化や品質の均一を図る。

総事業費22億7千万円で、国が今年度補正予算に盛り込んだ「食料自給率向上・産地再生緊急対策交付金」9億5245万4千円の補助金を受ける。

